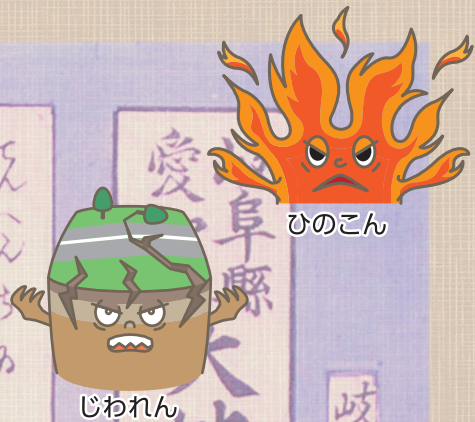




明治24年(1891)濃尾地震、昭和34年(1959)伊勢湾台風によって被害を受けた木曾川堤の桜並木(一宮市~江南市)



寛文2年(1662)の地震や、明治24年(1891)濃尾地震によって被害を受けた犬山城(犬山市)



歴史地震記録に学ぶ 防災・減災ガイド 尾張編



先人たちが伝えようとしたことに、
耳を傾けてみんかの



減斎さん



明治24年(1891)濃尾地震によって、旧三条村で亡くなられた方を追悼するために建てられた蓮光寺の震災死亡碑(一宮市)



明治24年(1891)濃尾地震による犠牲者を追悼するために、清洲公園内に建てられた大地震記念碑(清須市)



明治24年(1891)濃尾地震発生時の状況や、地震への恐怖が記されている恵日寺の震災記念碑(稲沢市)



昭和19年(1944)南海地震、昭和20年(1945)三河地震によって傘の部分が破損したとされている大脇神明社の常夜灯(豊明市)



※このパンフレットは、市町村誌や体験談集など地域に残る記録を参考に作成したものです



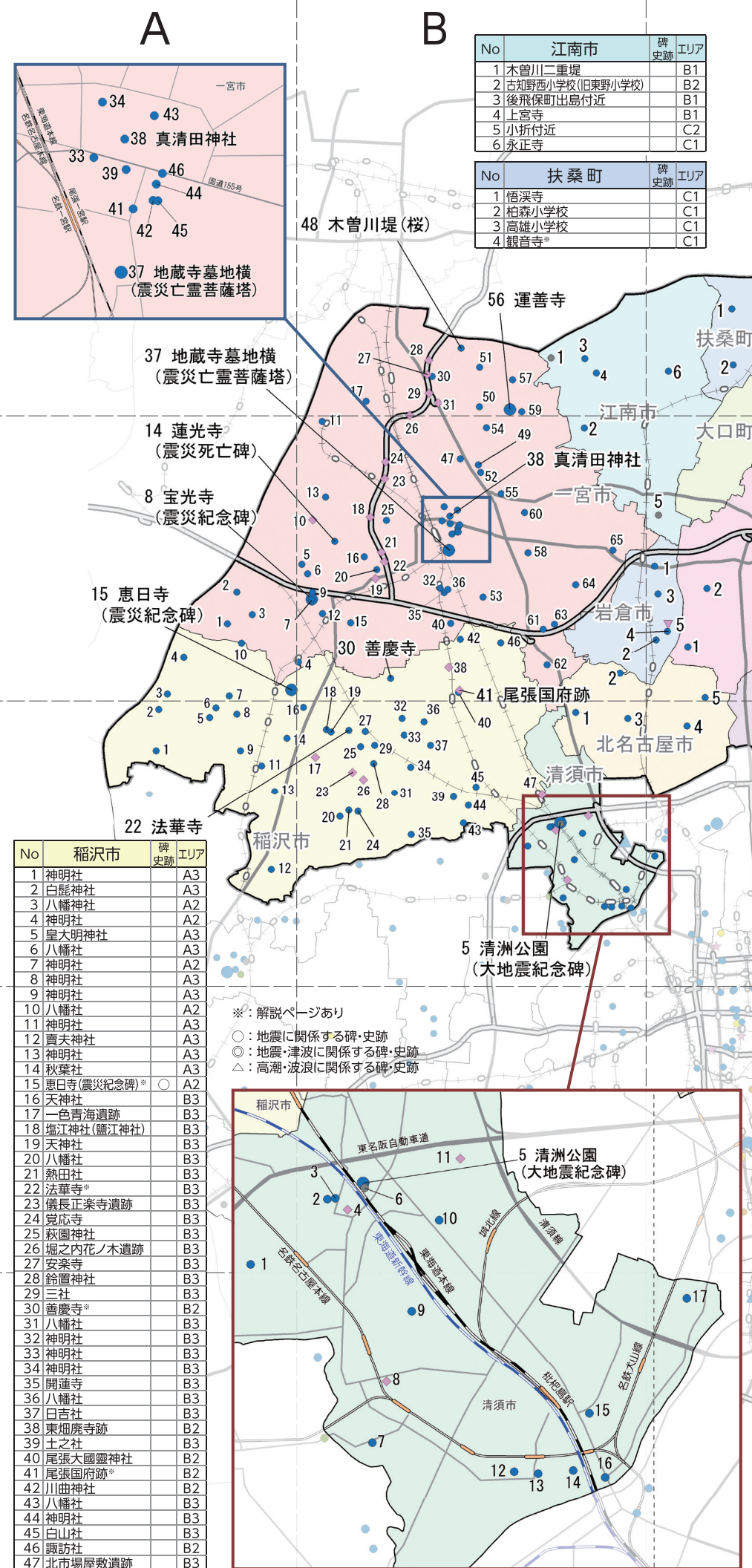
No	一宮市	碑史跡	エリア
1	白髭明神社		A2
2	天神社		A2
3	須佐之男社		A2
4	八剱神社		B2
5	神明神社		B2
6	天神社		B2
7	稲荷神社		B2
8	宝光寺(震災記念碑)*	○	B2
9	松山寺		B2
10	大平遺跡		B2
11	釈迦寺		B2
12	秋葉神社		B2
13	神明社		B2
14	蓮光寺(震災死亡碑)*	○	B2
15	観音寺		B2
16	熊野社		B2
17	圓法寺		B1
18	馬引横手遺跡		B2
19	山中遺跡		B2
20	八幡社		B2
21	毛受遺跡		B2
22	八王子遺跡		B2
23	東新規定遺跡		B2
24	西上免遺跡		B2
25	法門寺		B2
26	門間沼遺跡		B1
27	田所遺跡		B1
28	北道手遺跡		B1
29	大毛池田遺跡		B1
30	瑞光寺		B1
31	大毛沖遺跡		B1
32	白山社		B2
33	支提寺(観音堂)		B2
34	延命寺(地藏堂)		B2
35	妙興寺		B2
36	北浦社		B2
37	地藏寺墓地横(震災亡霊菩薩塔)*	○	B2
38	真清田神社*		B2
39	劔正寺		B2
40	貴船社		B2
41	高陰寺		B2
42	福寿院		B2
43	無量寿庵		B2
44	常念寺		B2
45	即得寺		B2
46	真光寺		B2
47	寶珠寺(宝珠堂)		B2
48	木曾川堤(桜)*		B1
49	阿彌陀寺(阿彌陀堂)		B2
50	東林寺(鳥のお観音様)		B1
51	妙光寺		B1
52	浄心寺		B2
53	丹陽西小学校(旧磯海道小学校)		B2
54	観音寺		B2
55	西郷寺(薬師堂)		B2
56	運善寺*	○	B1
57	頓受寺		B1
58	浅野小学校(旧浅淵小学校)		B2
59	観音寺		B1
60	赤見小学校(旧大赤見小学校)		B2
61	各方寺		B2
62	丹陽南小学校(伝法寺小学校分場)		B2
63	丹陽小学校(旧平島小学校)		B2
64	光明寺		B2
65	八幡社		B2

No	岩倉市	碑史跡	エリア
1	八剱社		C2
2	廣福寺		C2
3	神明社		C2
4	神明社		C2
5	岩倉城遺跡		C2

No	北名古屋	碑史跡	エリア
1	真福寺		B3
2	禪林寺		B2
3	八幡社		B3
4	訓原神社		C3
5	長栄寺		C2

No	清須市	碑史跡	エリア
1	天神社		B3
2	上皇神明社		B3
3	本陣跡		B3
4	清洲城下町遺跡		B3
5	清洲公園(大地震記念碑)*	○	B3
6	清洲城		B3
7	長谷院		B3
8	外町遺跡		B3
9	八剱社		B3
10	神明社		B3
11	朝日遺跡		B3
12	慈光寺(旧二ツ萩説教所)		B3
13	松原神社		B3
14	六軒神社		B3
15	二松小学校		B3
16	枇杷島橋		B3
17	西方寺		C3

No	稲沢市	碑史跡	エリア
1	神明社		A3
2	白髭神社		A3
3	八幡社		A2
4	神明社		A2
5	皇大明神社		A3
6	八幡社		A3
7	神明社		A2
8	神明社		A3
9	神明社		A3
10	八幡社		A2
11	神明社		A3
12	賣夫神社		A3
13	神明社		A3
14	秋葉社		A3
15	恵日寺(震災記念碑)*	○	A2
16	天神社		B3
17	一色青海遺跡		B3
18	塩江神社(鹽江神社)		B3
19	天神社		B3
20	八幡社		B3
21	熱田社		B3
22	法華寺*		B3
23	儀長正楽寺遺跡		B3
24	覚成寺		B3
25	菟園神社		B3
26	堀之内花ノ木遺跡		B3
27	安楽寺		B3
28	鈴置神社		B3
29	三社		B3
30	善慶寺*		B2
31	八幡社		B3
32	神明社		B3
33	神明社		B3
34	神明社		B3
35	開運寺		B3
36	八幡社		B3
37	日吉社		B3
38	東畑庵寺跡		B2
39	土之社		B3
40	尾張大國神社		B2
41	尾張国府跡*		B2
42	川曲神社		B2
43	八幡社		B3
44	神明社		B3
45	白山社		B3
46	腰訪社		B2
47	北市場屋敷遺跡		B3



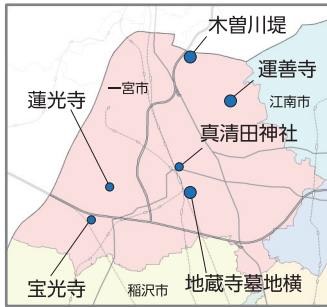
※：解説ページあり
○：地震に関する碑・史跡
◎：地震・津波に関する碑・史跡
△：高潮・波浪に関する碑・史跡

災害を今に伝える史跡など

一宮市

一宮市の被災状況

一宮市では、天正13年(1586)天正地震、昭和21年(1946)南海地震で建物被害が発生しています。嘉永7年(1854)安政東海・南海地震では、建物被害のほか堤防の破損も発生しています。明治24年(1891)濃尾地震では、建物被害のほか、堤防・道路・橋の崩壊、田畑の陥没・隆起、地割れ、水・泥・土砂・礫の噴出、井戸枯れ、井戸の埋没、火事が発生しています。この地震では、織物業に大きな打撃があったとされています。なお、一宮市における遺跡の発掘調査からは、濃尾地震、昭和19年(1944)昭和東南海地震の噴砂跡のほか、古墳時代にできたと思われる噴砂跡も確認されています。



木曾川堤(桜)

所在地:一宮市北方町～江南市草井町
交通:名鉄バス「138タワーパーク」より東 約300m

明治18年(1885)に木曾川堤防上に植えられましたが、明治24年(1891)濃尾地震で堤防が崩壊し、桜並木も損傷を受けたため補植されました。昭和34年(1959)伊勢湾台風でも損傷を受けています。



蓮光寺(震災死亡碑)

所在地:一宮市三条郷内
交通:名鉄尾西線「二子」より北 約2km

蓮光寺では、明治24年(1891)濃尾地震の際に堂宇が倒壊し、明治39年(1906)7月に再建されました。境内には、濃尾地震の際に旧三条村で亡くなられた方を追悼するための「震災死亡碑」があります。



真清田神社

所在地:一宮市真清田
交通:JR「尾張一宮」名鉄「名鉄一宮」より北東 約600m

真清田神社では、天正13年(1586)天正地震の際に、楼門、廻廊、社殿等が全壊・半壊しています。明治24年(1891)濃尾地震の際には、神殿や楼門は大破しなかったものの、瓦葺の拝殿や勅使殿などは壊滅状態になったとされています。



蓮善寺

所在地:一宮市浅井町大日比野
交通:名鉄バス「大日比野」より西 約400m

蓮善寺の山門は、明治元年(1868)に、犬山城から移されましたが、明治24年(1891)濃尾地震で倒壊しています。その折に改修されましたが、平成5年の修理によって、当初に近い姿になっています。この山門は一宮市の指定文化財になっています。



地蔵寺墓地横(震災亡霊菩薩塔)

所在地:一宮市本町通
交通:JR「尾張一宮」名鉄「名鉄一宮」より南東 約700m

明治24年(1891)濃尾地震の際に、地蔵寺の建物はことごとく倒壊したとされています。また、寺の墓地横には濃尾地震による死者を供養するため建てられた「震災亡霊菩薩塔」があります。



宝光寺(震災記念碑)

所在地:一宮市萩原町萩原
交通:名鉄尾西線「萩原」より北西 約800m

明治24年(1891)濃尾地震の際に、当時の萩原村では60人以上の死者が出て、約8割の建物が全壊・半壊しています。碑の内容からすると、この碑は、当地でも激震があったことを後世に伝えるために建てられたものと思われる。

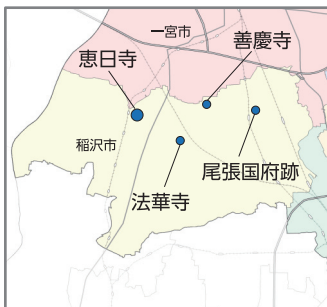


災害を今に伝える史跡など

稲沢市

稲沢市の被災状況

稲沢市では、天正13年(1586)天正地震、昭和21年(1946)南海地震で建物被害を受けています。明治24年(1891)濃尾地震では、建物の倒壊が多数あったほか、地割れ、水・砂・泥の噴出、井戸水噴出、お墓・煙突などの倒壊も発生しています。なお、稲沢市における遺跡の発掘調査からは、濃尾地震、昭和19年(1944)昭和東南海地震の噴砂跡のほか、天正地震など中世にできたと思われる噴砂跡も確認されています。



恵日寺(震災記念碑)

所在地:稲沢市西島
交通:名鉄尾西線「山崎」より北東 約400m

恵日寺にある震災記念碑には、明治24年(1891)の濃尾地震発生時の状況や、男女11人の即死者があったこと、「おそろしきなみ(なみ:地震のこと)に残りし人もなし」と地震への恐怖が記されています。



法華寺

所在地:稲沢市法花寺町熊ノ山
交通:名鉄尾西線「森上」より東 約3.5km

法華寺では、明治24年(1891)濃尾地震の際に本堂が倒壊しています。その後、庫裡を建て仏様をその一室に安置した、と伝えられています。



善慶寺

所在地:稲沢市石橋
交通:名鉄本線「国府宮」より北西 約2.0km

善慶寺は、明治24年(1891)濃尾地震の際に堂宇が全壊したとされています。周辺の寺社、煙突が倒れ、道路に地割れが続いていた、などの体験談もあります。



尾張国府跡

所在地:稲沢市国府宮
交通:名鉄本線「国府宮」より北東 約350m

稲沢市には尾張国の国府所在地と推定される遺跡があり、尾張大國神社を中心に約800m四方の範囲で、1977年から1990年にかけて稲沢市教育委員会によって発掘調査が行われています。この発掘調査で砂脈(噴砂跡)が確認されています。この噴砂跡は、明治24年(1891)濃尾地震、天正13年(1586)天正地震等によるものである可能性が指摘されています。

災害を今に伝える史跡など

江南市、犬山市、大口町、扶桑町

江南市の被災状況

江南市では、明治24年(1891)濃尾地震の際に、建物の倒壊、水田・道路・堤防などの地割れ、泥水の噴出、地面の陥没・隆起、火事が発生しています。



扶桑町の被災状況

扶桑町では、明治24年(1891)濃尾地震の際には、建物の倒壊が多数あり、道路に地割れも発生しています。昭和19年(1944)昭和東南海地震では、建物の半壊があったとの報告があり、昭和21年(1946)南海地震では多くの家屋の屋根瓦が落ちたとされています。

観音寺

所在地:扶桑町高雄中郷
交通:名鉄犬山線「木津用水」より南 約700m

観音寺は、明治24年(1891)濃尾地震の際に大被害を受けています。ただ、すぐに修復するまでには至らず、明治43年に庫裡、本堂が再建されています。

徳授寺

所在地:犬山市犬山南古券
交通:名鉄犬山線「犬山」より南西 約600m

徳授寺は、明治24年(1891)濃尾地震の際に、本堂が倒壊するなどの被害を受けています。寛宗和尚がその再建に努めたとされています。

犬山市・大口町の被災状況

寛文2年(1662)の地震では、犬山城で石垣が崩壊しています。明治24年(1891)濃尾地震では、犬山市・大口町とも建物の倒壊が多数あったほか、犬山市では、石垣の崩壊、山間部で山崩れ、火事、地割れ、辰が池、葦池、新池、徳が池、午堤池等の堤防の地割れが発生しています。また、明治元年(1868)には、連日降り続いた雨で入鹿池の堤防が決壊し、羽黒村(現犬山市)から小口村(現大口町)一帯に大水が押し寄せ、家や人馬に大きな被害を与えたといわれています。

犬山城

所在地:犬山市犬山北古券
交通:名鉄犬山線「犬山」より北西 約1.3km

寛文2年(1662)の地震により石垣が崩壊した記録があるほか、明治24年(1891)濃尾地震では、石垣、櫓、天守閣などが崩壊する被害を受けています。なお、犬山城の入口左側には、宝暦治水の際の薩摩藩士の崇高な精神をたたえた碑もあります。

入鹿池

所在地:犬山市池野地区
交通:名鉄犬山線「羽黒」より南東 約5km

入鹿池では、明治24年(1891)濃尾地震の際に、堤防に幅6～9cm程度、深さ5.5m程度に達する地割れが出来たとされています。この時には、幸いにも水位が低かったために、破堤には至りませんでした。なお、明治元年(1868)には、連日降り続いた大雨により決壊し、浸水被害が発生しています。

災害を今に伝える史跡など

岩倉市、清須市、北名古屋市、豊山町

岩倉市の被災状況

岩倉町史には、明治24年(1891)濃尾地震の際、岩倉村では全戸数747戸の内、全壊576戸、半壊112戸、大破42戸と、ほとんどの建物が被害を受けたことが記されています。このほか豊秋村、幼村でも全壊・半壊が過半数以上に及んだとされています。この地震の際には、地盤の隆起、地割れのほか、水・砂・泥の噴出が発生しています。

北名古屋市の被災状況

北名古屋市では、明治24年(1891)濃尾地震の際に、建物の倒壊が多数あった、とされています。西春町史には、瓦屋根の家が大方倒壊した、と記載されています。また明治元年(1868)に入鹿池が決壊した大雨の際には、西春でも何箇所かで堤防が決壊しています。

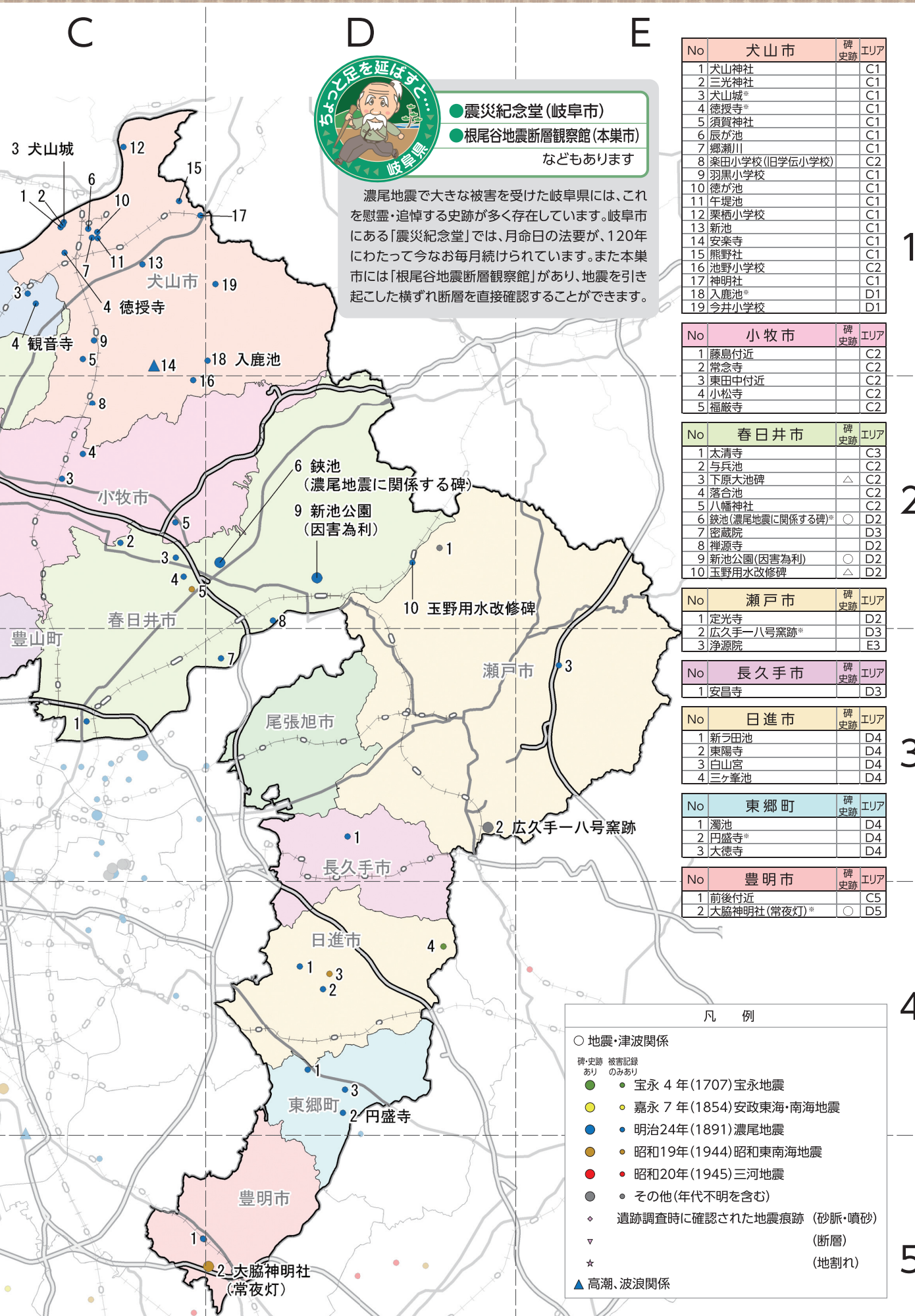
清洲公園(大地震記念碑)

所在地:清須市清洲
交通:名鉄本線「新清洲」より北東 約1km

清洲は明治24年(1891)濃尾地震において大きな被害を受けており、当時の新聞報道では「清洲の惨状最甚しく家屋の存するもの殆んど稀なり」と記されています。清洲公園内にある「大地震記念碑」には、

地震による地区の死者数(64人)が刻まれています。また、近傍では、清洲城下町遺跡の発掘調査の際に、天正13年(1586)天正地震ならびに濃尾地震によるものと思われる砂脈(噴砂跡)が確認されています。

○地震・津波関係 ●宝永4年(1707)宝永地震 ●嘉永7年(1854)安政東海・南海地震 ●明治24年(1891)濃尾地震 ●昭和19年(1944)昭和東南海地震 ●昭和20年(1945)三河地震 ●その他(年代不明を含む) ▲高潮、波浪関係



- 震災記念堂(岐阜市)
 - 根尾谷地震断層観察館(本巣市)
- などもあります

濃尾地震で大きな被害を受けた岐阜県には、これを慰霊・追悼する史跡が多く存在しています。岐阜市にある「震災記念堂」では、月命日の法要が、120年にわたって今なお毎月続けられています。また本巣市には「根尾谷地震断層観察館」があり、地震を引き起こした横ずれ断層を直接確認することができます。

No	犬山市	碑史跡	エリア
1	犬山神社		C1
2	三光神社		C1
3	犬山城*		C1
4	徳授寺*		C1
5	須賀神社		C1
6	辰が池		C1
7	郷瀬川		C1
8	楽田小学校(旧学伝小学校)		C2
9	羽黒小学校		C1
10	徳が池		C1
11	午堤池		C1
12	栗橋小学校		C1
13	新池		C1
14	安楽寺		C1
15	熊野社		C1
16	池野小学校		C2
17	神神社		C1
18	入鹿池*		D1
19	今井小学校		D1

No	小牧市	碑史跡	エリア
1	藤島付近		C2
2	常念寺		C2
3	東田中付近		C2
4	小松寺		C2
5	福蔵寺		C2

No	春日井市	碑史跡	エリア
1	太清寺		C3
2	与兵池		C2
3	下原大池碑	△	C2
4	落合池		C2
5	八幡神社		C2
6	鉄池(濃尾地震に関する碑)*	○	D2
7	密蔵院		D3
8	禪源寺		D2
9	新池公園(因害為利)	○	D2
10	玉野用水改修碑	△	D2

No	瀬戸市	碑史跡	エリア
1	定光寺		D2
2	広久手一八号窯跡*		D3
3	浄源院		E3

No	長久手市	碑史跡	エリア
1	安昌寺		D3

No	日進市	碑史跡	エリア
1	新三田池		D4
2	東陽寺		D4
3	白山宮		D4
4	三ヶ峯池		D4

No	東郷町	碑史跡	エリア
1	濁池		D4
2	円盛寺*		D4
3	大徳寺		D4

No	豊明市	碑史跡	エリア
1	前後付近		C5
2	大脇神社(常夜灯)*	○	D5

災害を今に伝える史跡など

※この地図は、主に市町村誌や体験談等を参考に、地震に関する碑・史跡や、被害記録がある地点をプロットしたものです。



じわれん



ゆらすん



ひのこん

濃尾地震の被災状況(写真と体験談)



一宮市の被災状況
 (「明治二十四年 濃尾大震災写真帖(復刻版)」(愛知県総務部消防防災課)より)

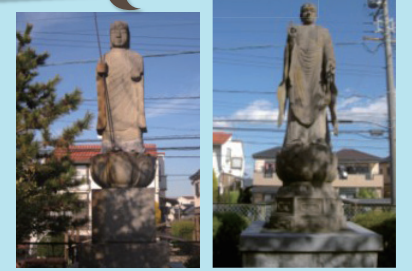
当時、私はまだ九才で、小学校二年生でした。…朝食をしていた時です。いかにも気味のわるいドードーと音がしたかと思うと、其の直後ふわふわとしてきた時、父が「それ地震じゃ、早く藪へ逃げて行け」と大声でさけびましたから、逃げだそうと思っても、ふらついて歩けない。はって行けと言いましたから、姉と二人はって藪へ行きました。すぐそばにあった井戸は埋ってしまい、そとや縁の下に亀裂が出来て泥水がふき出しました。門は倒れ、土蔵も倒れてしまい、住宅は倒れなかったがひどく傾き、土壁は全部ふるい落ちてしまい、戸や障子は外れ、とても中へ入れない有様で、…うら隣四軒と前隣一軒と五軒とも皆倒れてしまいました。…学校はどうかと思って見に行きましたら、学校の土壁はきれいに落ちてしまい、立っただけでした。すぐそばに先生の宅がありましたが、完全に倒れていた。氏神様の灯ろうは全部倒れて居ました… (一宮市)

先人の声を聞き活かしていくことが大切なじや

減斎さん
 昔の地震のことを、とても詳しく知っているおじいさん。



長久手市にはこんなものも… (亜炭坑関係)



地震の際には、亜炭坑の落盤・陥没が懸念されますが、長久手市には亜炭坑に由来した「喜婦嶽(きぶたけ)地藏尊」(写真左)と「阿弥陀仏像」(写真右)が建てられています。これらは地震の災害ではなく、喜婦嶽炭鉱で発生した出水事故による遭難者を供養するために、長久手市長配1丁目に建てられたものです。

濃尾地震の「震災数え歌」

この数え歌は、地震の悲惨な状況を後世に伝え、二度と同じ悲劇を繰り返さないでほしいという思いを込めて作られたものです。岐阜県大垣市在住の方が親から聞いて覚えていたもので、「濃尾地震100年記念誌」に記録されました。



※負傷人(けがにん)は、この数え歌の中での読み仮名です。

防災・減災のための 一口メモ

- 地域の被災傾向を知って、地震に備えましょう。
- 地域の地名の由来を知って、災害危険箇所を掴んでおきましょう。
- 先人の声(警鐘)に耳を傾けて、過去の地震の教訓を防災・減災行動に生かしましょう。
- 地震後の大雨、洪水、高潮などによって、複合災害が起きています。地震以外の災害にも注意しましょう。
- 現代の有益なサービス(緊急地震速報、地域のメールサービスなど)を利用して、落ち着いて行動しましょう。
- 地震の際の危険な箇所を知って、避難行動に生かしましょう。
- 被災時には、まずは自分の身は自分で守りましょう。被災後は地域の方々と協力しましょう。

この資料について

この資料は、「地域に残る地震の記録」などを知っていただき、地震をより身近に感じていただくことを通じて、県民の皆さまが防災・減災を考えていただくきっかけになれば、との思いから作成されたものです。この資料を作成するにあたり、下記の方々のほか多くの方々のご協力・ご助言をいただきました。記して感謝の意を表します。

〈作成協力〉 [歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイド委員会] 委員長:武村 雅之 委員:加藤 規博 隈本 邦彦 栗田 暢之 近藤 ひろ子 佐藤 克彦 (敬称略) 鈴木 康弘 都築 充雄 服部 俊之 廣井 悠 福和 伸夫 溝口 常俊 護 雅史 山中 佳子(50音順で記載)

この地域の過去の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などを探しています。ご存知の情報を下記までお知らせください。

災害を今に伝える史跡など

瀬戸市、春日井市、小牧市、尾張旭市

小牧市の被災状況

小牧市では、明治24年(1891)濃尾地震の際に、建物の倒壊、地割れ、ため池・河川の堤防の決壊、浸水被害、砂・泥・礫・水の噴出、井戸水の噴出、火事、橋梁流失などが発生しています。

瀬戸市の被災状況

瀬戸市では、永正7年(1510)の地震の際に、定光寺の仏殿、方丈、山門などが被害を受けています。宝永4年(1707)宝永地震では、瀬戸・赤津・下品野で窯が崩れる被害を受けています。嘉永7年(1854)安政東海・南海地震でも、瀬戸・赤津・下品野は壊滅的な被害があったとされています。明治24年(1891)濃尾地震では、瀬戸・赤津・品野ほか近隣の窯がごとごとく破壊されたほか、家屋の倒壊、地割れ、水の噴出、堤防の破壊、池水の氾濫などが発生しています。



春日井市の被災状況

春日井市では、明治24年(1891)濃尾地震の際に、ため池・河川の堤防の決壊、建物の倒壊、泥・土・砂・礫の噴出、地割れが発生しています。昭和19年(1944)昭和東南海地震では、民家の壁の崩落、墓石・石灯籠などの倒壊、小学校の玄関の柱の崩落などの被害が発生しています。

尾張旭市の被災状況

尾張旭市誌には、明治24年(1891)濃尾地震の際に建物の全壊・半壊があったこと、矢田川沿岸では地盤の隆起・陥没などが見られたことが記載されています。このほか、維持池、濁池、上池といったため池の堤防が決壊しています。

● 鉄池 (濃尾地震に関係する碑)

所在地:春日井市大泉寺町
交通:JR中央線「神領」より北 約2.5km

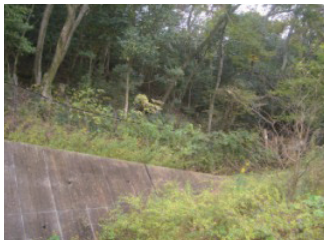
鉄池には改修記念碑や水神碑など、多数の碑が建立されています。この碑には、明治24年(1891)濃尾地震によって、大泉寺新田の池が崩れたこと、地方税と国庫金の補助を受けて修復したことなどが記されています。



● 広久手一八号窯跡

所在地:瀬戸市吉野町
交通:愛知環状鉄道「山口」より南東 約1.7km

瀬戸市の基幹産業である窯業も地震の被害を受けています。瀬戸市史によれば、広久手一八号窯跡には地震によって生じた地滑りが発掘によって確認されました(ただし現在では埋め戻されており、直接確認することはできません)。



災害を今に伝える史跡など

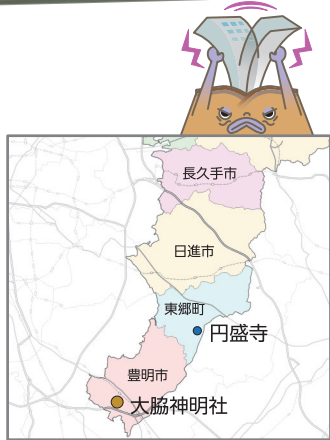
豊明市、日進市、長久手市、東郷町

長久手市の被災状況

長久手町史には、明治24年(1891)濃尾地震の際に、建物の倒壊のほか、堤防の破壊、損傷、傾斜したものが多数で惨状を窮めたことが記されています。昭和19年(1944)昭和東南海地震、昭和20年(1945)三河地震では、建物の倒壊があったとされています。

東郷町の被災状況

東郷町では、明治24年(1891)濃尾地震の際に、建物の倒壊が多数あったほか、石碑・石灯籠の転倒、ため池の堤防の地割れ、道路の地割れ・陥没が発生しています。昭和19年(1944)昭和東南海地震、昭和20年(1945)三河地震でも、建物の倒壊が発生しています。



日進市の被災状況

日進市では、宝永4年(1707)宝永地震の際に、米野木の三ヶ峯池の堤防が崩れ、池の水が溢れて村里に浸水した、とされています。明治24年(1891)濃尾地震では、建物の倒壊、墓石の転倒、地割れが発生しているほか、新ら田池が決壊しています。昭和19年(1944)昭和東南海地震では、石灯籠の転倒が発生しています。

豊明市の被災状況

豊明市では、明治24年(1891)濃尾地震の際に、建物の倒壊、地割れ、地下水の噴出が発生し、荒巻池も決壊しています。昭和19年(1944)昭和東南海地震、昭和20年(1945)三河地震では、建物の倒壊が発生しています。

● 円盛寺

所在地:東郷町春木中通屋敷
交通:じゅんかい君バス「東郷町総合体育館」より南 約250m

円盛寺では、明治24年(1891)濃尾地震の際に、庫裡が倒壊し、本堂が傾斜する被害を受けています。周辺の建物、石灯籠等の倒壊も発生しています。



● 大脇神明社 (常夜灯)

所在地:豊明市米町大脇
交通:名鉄本線「豊明」より北西 約1.1km

この常夜灯は、昭和19年(1944)東南海地震と昭和20年(1945)三河地震により、傘の部分が破損しています。当初は大脇公会堂西の道路沿いに取りましたが、保護工事をして現在の地に移されています。



○地震・津波関係

●宝永4年(1707)宝永地震
●昭和19年(1944)昭和東南海地震

●嘉永7年(1854)安政東海・南海地震
●昭和20年(1945)三河地震

●明治24年(1891)濃尾地震
●その他(年代不明を含む)

▲高潮、波浪関係

愛知県における主な被害地震と気象災害



時代	愛知県の主な被害地震(●は地域での影響が大きかったもの)	主なできごとと気象災害等
奈良	和銅8年[聖徳元年](715)5月、三河・遠江に地震。三河東部では、正倉(穀物や財物を保管する倉庫)の破壊、民家の埋没等の被害あり。	(694)藤原京に遷都、(710)平城京に遷都 (729)長屋王の変、(740)藤原広嗣の乱(北九州)、恭仁京(京都)に遷都 (744)難波宮(大阪)に遷都、紫香楽宮(滋賀)に遷都→平城京(京都)に遷都→(794)平安京(京都)に遷都
平安	嘉保3年[永長元年](1096)11月、永長の東海地震。震源地は熊野灘沖。東海道沿岸では津波の被害あり。 保安5年[天治元年](1124)2月、尾張を震源とする地震。海東郡(海部地域)の基目寺が地震で破壊。	(1083)後三年の役(~1087) (1124)中尊寺金色堂建立 (1185)屋島の合戦、壇の浦の戦い (1192)源頼朝、征夷大将軍になる (1333)鎌倉幕府滅亡、建武の新政
鎌倉	—	(1192)源頼朝、征夷大将軍になる
室町(南北朝)	—	(1333)鎌倉幕府滅亡、建武の新政
室町(戦国)	明応7年(1498)6月、三河、強震。豊川の河流が変化。 明応7年(1498)8月、明応の東海地震。東海道地方に激震。紀伊半島から房総半島で大津波により大災害。浜名湖が外海とつながり(今切)、安濃津が陥没し海になったといわれている。 永正7年(1510)8月、尾張、三河に地震。定光寺(瀬戸市)で本堂大破。津波発生(高潮の可能性もある)。	(1467)応仁の乱おこる、(1493)明応の政変、(1497)大雨で豊川が大洪水 (1510)三浦の乱
安土・桃山	天正13年(1586)11月、天正地震。近畿から東海道にかけて大地震。家屋の全半壊400戸、死傷者多数に及び、真清田神社(一宮市)の楼門、回廊、社殿などが全半壊、岡崎城が破壊。法性寺(あま市)なども倒壊。津島では大地震による田畑の陥没で約96ヘクタールが永荒地になる被害あり。長島城(桑名市)も倒壊。 文禄5年[慶長元年](1596)閏7月、慶長伊予地震、慶長豊後地震、慶長伏見地震。尾張で強震。津波発生。	(1582)本能寺の変、山崎の戦い、(1583)賤ヶ岳の戦い、(1584)小牧・長久手の戦い (1586)大雨で木曾川が大洪水。河道が変化。尾張・美濃の沿岸地域で大水害 (1590)豊臣秀吉が天下統一 (1592)文禄の役(~1596)、(1597)慶長の役(~1598)、(1600)関ヶ原の戦い
江戸	慶長9年(1605)12月、慶長地震。房総沖と南海道沖に殆ど同時に大地震。津波は犬吠岬から九州に及び、各地で甚大な被害を受けた。片浜の舟も被害あり。 寛文2年(1662)5月、寛文の近江・若狭地震。近畿・東海地方大地震。家屋、人畜の被害甚大。犬山城石垣破損。田原方面の民家、田畑、河川等の被害も大きかった模様。 寛文6年(1666)4月、尾張・知多半島に津波が来襲し、新田を破壊。ただし、地震の記事がないため、地震津波が高潮かは不明。 寛文9年(1669)6月、尾張で地震。名古屋城の石垣崩れる。 延宝5年(1677)10月、延宝の房総沖地震。関東南部に地震があり、津波があった。震源は磐城沖。尾張にも津波があったといわれるが詳細不明。 貞享2年(1685)3月、三河渥美郡に大地震があり、山崩れ、家屋倒壊あり。人畜多数が死亡。 貞享3年(1686)8月、三河・遠江で強震。震源地は渥美半島の北東端、または遠州灘。田原では、田原城の櫓、武家屋敷、町家等が破損し、死者があった。 元禄16年(1703)11月、元禄の関東地震。関東・東海地方に大地震。津波により、渥美では死者が多く、船、網等が流失。知多でも人家の倒壊、流失多数。 宝永4年(1707)10月、宝永地震。津波、山崩れあり。人馬多数死亡。田畑に海水入る。町家、寺社、土蔵、堤防など破壊、橋が落ちる。地割れ、泥水噴出。	(1603)徳川家康、征夷大将軍となる (1605)大雨・洪水で尾張・三河ほかで被害 (1614)大坂冬の陣、(1615)大坂夏の陣 (1650)水害。大雨で木曾・長良・揖斐の三川が大出水し各所で破壊(大寅の洪水)、(1651)由井正雪の乱、 (1657)明暦の大火 (1664)水害。大雨で矢作川の堤防が拳母村で破壊 (1666)大雨で庄内川が大出水し、尾張各所の田畑が水害 (1674)暴風雨。木曾川の洪水で尾張・美濃大水害(小寅の洪水) (1678)暴風雨。洪水で尾張蒲領内の田畑・堤防・家屋に被害 (1687)水害。大雨で庄内川が出水 (1701)大雨で庄内川・矢田川・天白川・矢作川ほかで出水し大水害。渥美では新田の堤防が破壊、(1702)暴風雨で佐屋川水系、天白川の堤防が破壊、(1703)暴風雨で洪水。渥美の新田堤防が決壊 (1706)大雨で豊川がはんらん。庄内川の堤防が破壊、(1707)富士山噴火、(1708)暴風雨で東三河の河川は出水。三河湾・伊勢湾で高潮 (1716)享保の改革はじまる(~1745)、(1718)暴風雨で、渥美湾に高潮発生 (1722)暴風雨で尾張・三河は激甚災害。伊勢湾・渥美湾で高潮 (1731)暴風雨で矢作川堤防が拳母村で破壊、(1732)享保の大飢饉 (1767)大雨で矢田川が破堤し、流路が変化(亥年の洪水) (1782)天明の大飢饉(~1787)、(1795)暴風雨で矢作川が出水(合飲の木切れ)、(1801)大雨で菅生川・青木川・矢作川の堤防決壊 (1802)暴風雨。伊勢湾沿岸で高潮。岡崎・額田で水害。三河吉田でも被害 (1819)名古屋とその周辺に連日雷雨。雷雨によって各地に火災発生、 (1825)異国船打払令発令 (1821・1822)大雨で矢作川が出水。拳母村で破壊、(1823)大雨で矢作川が出水、(1833)天保の大飢饉 (1853)ペリー浦賢に来る (1852)大雨で矢作川が出水。額田郡・幡豆郡で破壊(天白切れ)、(1853)大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破壊 (1854)日米和親条約締結。大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破壊 (1855)暴風雨で尾張・三河で洪水。庄内川・矢田川・新川・天白川・大高川・矢作川の堤防が決壊はんらん。河和では古布小谷の川が破壊。海西部では新田が破壊。矢作川下流の新田でも破壊。伊勢湾・渥美湾で高潮。沿岸の新田堤防や海岸堤防が決壊。下田で日米和親条約批准 (1856)大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破壊 (1857)大雨で豊川・庄内川が出水 (1858)日米修好通商条約調印、安政の大獄(~1859)、(1860)桜田門外の変、(1862)坂下門外の変
明治	明治24年(1891)10月、濃尾地震。震源地は揖斐川上流域。東海・北陸・近畿地方東部、特に美濃西部から尾張北西部にかけて記録的な大被害。家屋の倒壊、死傷者多数。山崩れ、陥没、地割れ、噴砂等の地変が多く見られた。	(1868)丹羽郡入鹿池堤防の決壊(明治元年の入鹿切れ)、(1882)菅生川(乙川)の決壊はんらん(三島切れ)、(1890)エルトゥールル号事件、 (1891)暴風雨で乙川・巴川の橋が流失・山くずれなど多数。矢田川などで堤防破損、(1891-1892)尾張で大雪、(1894)日清戦争はじまる
大正	大正12年(1923)9月、関東地震。震源地は相模湾辺り。東京を中心に関東地方南部に大被害。壁が落ちた家、非住家の倒壊、煙突の倒壊、石碑・灯籠等の倒壊が、豊橋、新城、瀬戸、岩倉、刈谷等であり。	(1923)知多郡・東春日井郡でたつまき。台風による暴風雨。名古屋港で船の流失、堀川・新堀川で木材の流失、熱田で家屋浸水、愛知郡で山くずれ
昭和	昭和19年(1944)12月、東南海地震。津波あり。被害は静岡・愛知・岐阜・三重で多かった。死傷者、家屋の全半壊、流失多数。沖積地・埋立地で被害大。地割れ、土砂と水の噴出、不等沈下あり。道路や橋、地下埋設管の被害もあり。堤防の損壊、海岸堤防の崩壊あり。井戸に汚濁、水位変化もあり。 昭和20年(1945)1月、三河地震。震源地は渥美湾。矢作川下流域の幡豆(西尾市)・碧海郡(西三河地域 西部)方面を中心に大被害が集中。死者、住家全壊多数。土地の隆起・沈降、小津波もあり。 昭和21年(1946)12月、南海地震。震源地は紀伊半島沖。津波あり。被害は中部地方から九州にまで及び。死傷者、家屋の全半壊、流失、焼失多数。	(1934)室戸台風、(1941)太平洋戦争はじまる(~1945) (1945)原爆投下・ポツダム宣言受諾、枕崎台風、阿久根台風などにより、家屋倒壊、堤防決壊、浸水被害。尾張部で大積雪 (1947)カスリーン台風ほかで浸水被害、(1950)ジェーン台風、(1954)洞爺丸台風、(1958)狩野川台風、(1959)伊勢湾台風

*年表内の「月」は旧暦で記載。 * 気象災害については、「愛知県の主な被害地震」の欄に記載した地震直近のものを記載。